

## 表紙について

題：桜花咲く「日本国（平和）憲法」を保持する美しき国

日本列島（内地）に広く花開く、バラ科スモモ属の落葉広葉樹である「桜：ソメイヨシノを主とする」は、江戸時代に「エドヒガン（ヒガンザクラ）」と「オオシマザクラ」との接ぎ木により育種された「品種改良種」であり、現代のバイオテクノロジーの専門用語で表現すると「細胞融合株」であるとも言える。

「菊花：天皇家の御紋」と共に日本の「国花」である桜花は「桜前線」に沿って、日本の内地を南から北に向けて、約4ヶ月余に渡って、他の多くの桜の品種と共に毎年、開花（中には結実）を繰り返す。

それに対して、明治時代に「旧大日本帝国」と合併（統合）した首里城を王国の中心とする「旧琉球王国：沖縄（本）島、伊江島、渡嘉敷島、久米島等、更に尖閣諸島、先島諸島（宮古島、八重島、多良間島、石垣島、竹富島、西表島、波照間島、与那国島等）」の桜は、台湾島（標高4000m以上を誇る「新高山」を有する）に種の起源を持つとされているバラ科サクラ属の「カンヒザクラ」である。その開花（モトブザクラを含む）は、沖縄島の北部（辺戸岬：へどみさき、本部：もとぶ）から、名護城（なかんずく）を経て、那覇へと南下しながら開花することで有名である。

画像提供者：中島伸佳（編集委員長）